

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響 —他施設で出産する女性に焦点を当てて—				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	中川 有加
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 実穂
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	福島 恭子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美

講演題目	助産所助産師との交流会「Go to 産婆」の実施とその評価
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的】 近年、少子化や児童虐待、産後うつなど妊産婦や子どもをめぐる様々な問題解決に向け、「妊娠期からの切れ目ない支援」をキーワードとした支援が進められている。しかし、日本では99%の出産が病院・診療所で行われており、多くの母親が妊娠から出産までの支援は病院・診療所で、退院後の子育て支援は助産所等で受けていることが推察される。こうした現状から、看護学部母性看護学・助産学領域では、令和4年度より静岡市助産師会と協力し、すべての母子が妊娠中から地域開業助産師の存在を知り、妊娠中から育児期にかけて継続的なケアを受けることができることを目的とした「地域助産師との交流会-Go to 産婆-」（以下、交流会）を企画・運営してきた（令和4年度教員特別研究「病院出産を選択する女性が妊娠期から地域開業助産師と繋がることによる産後うつ予防の効果（研究代表者：高木静）」。本年度は、妊娠期から出産施設とは異なる助産所助産師と交流し、継続的にケアを受けることが女性にとってどのような経験であり、妊娠・出産・子育てにどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的に交流会を企画し、評価した。</p> <p>【研究の成果】 令和5年12月から令和6年3月まで、静岡市内の助産所、子育て支援センターを会場に合計8回の交流会を開催した。参加した女性は56名であった。交流会のファシリテーターは、静岡市助産師会会員である開業助産師および病院勤務助産師がつとめた。交流会では、病院・助産院それぞれでの出産の現状や助産院での妊婦健診の仕方、両親教室等をテーマに参加者と助産師が話し合った。参加者へのアンケートでは、「通院している医院では医師—患者になってしまうが、フラットな関係でやり取りできてよかった」「（本交流会のように）気軽に集まった方が相談しやすい」「こうした機会があれば、妊婦の不安が和らぐと思う」等の意見が得られた。これらのことから、本交流会は女性にとって気軽に助産師と交流できる機会であり、不安の軽減など女性の妊娠・出産・子育てに肯定的な影響を与える可能性が示唆された。</p> <p>【今後の展望】 本研究では、交流会参加者のうち、病院・診療所等他施設で出産した女性にとって、助産所助産師に継続的なケアを受けることがどのような経験であるのかを明らかにしようとしている。今後は、研究対象者への個別インタビューを進め、妊娠期の交流会参加から始まる助産所助産師による継続的なケアが女性の妊娠・出産・子育てにどのような影響を与えているのかを具体的に明らかにしていきたい。</p>